

# 住宅都市地域における持続可能なコミュニティの在り方の調査研究の概要①

## 調査研究目的・手法等

- 地域の支え合いの根本となるコミュニティの再生に向け、超高齢化の進展とコミュニティの希薄化に伴う地域課題を整理し、課題解決のための手法について検討することを目的
- 市内13地区において高齢化率が上位2地区である、湘南大庭地区と片瀬地区(片瀬山エリア)を調査対象に設定
- 対象地区の現況把握等(公共施設の状況、コミュニティの活動状況等)により地域課題を整理しながら調査テーマを設定し、コミュニティ活動へのヒアリング調査及び先行事例の文献調査等を行い、施策の方向性を検討

## コミュニティをめぐる社会状況と課題

- 超高齢社会の進展  
⇒ 後期高齢者、一人暮らし高齢者の増加
- 少子社会の到来  
⇒ 出生率の低下、15歳以下人口の減少
- 働き手の割合の減少  
⇒ 老年人口指数の増加
- 産業構造の変化  
⇒ 生活支援サービスの増加、暮らし方の変化
- 格差の拡大  
⇒ 生活保護費・就学援助費、ひとり親家庭の増加
- 市民活動の二極化  
⇒ 地縁型コミュニティとテーマ型コミュニティ



- 活動の場の多様化と居場所の確保  
⇒ 多世代が交流できる場、公共施設・民間施設の活用
- 空き家・空き室の増加
- ニュータウン(団地)の再生  
⇒ 多世代住居・近居
- 移動環境の整備  
⇒ バス交通の充実、乗り合いタクシー
- 住まい方の変化  
⇒ 住宅政策の再構築、住み慣れた地域で暮らす意識の広がり
- その他  
⇒ 子育てにやさしいまち、若い世代が定住できる仕組み、地域で見守る活動の重要性、子どもの貧困化対策



## 調査テーマの設定

- 【調査テーマ①】居場所の役割と今後の可能性(居場所の多様さ、主体の多様さ)
- 【調査テーマ②】地域のつながりをつくるための信頼関係の構築(人々をつなぐキーパーソンの必要性)
- 【調査テーマ③】参加ツールとしてのロボットの活用(コミュニケーションロボット)
- 【調査テーマ④】コミュニティ活性化のための住宅地デザイン(多様な場の立地、空き家の活用)



# 住宅都市地域における持続可能なコミュニティの在り方の調査研究の概要②

## 調査を通して明らかになったこと

### (1) 地域コミュニティを支える人の視点

- 顔と顔が見える信頼関係をつくること
- 互いに話ができるきっかけをつくり、つながりを持つこと
- 自分たちで解決する気持ちを持つこと
- つながりをつくる橋渡し役が要ること
- 気軽に立ち寄れる「居場所」が大切な役割を持つこと
- 「居場所」の活動を広げるためには公的な支援も必要なこと
- 藤沢の地域活動は地縁型コミュニティから、テーマ型、ミッション型コミュニティへと移行していること

### (2) 住み慣れた住まいのある住宅地域という視点

- 多様な機能を持つ「居場所」を確保できる環境をつくること
- 住宅を含めた既存の地域資源の活用を図ること
- 子どもから高齢者までの多世代が近くに住み、互いに支え合うことができる住環境をつくること
- 住まいを中心とした支え合い・助け合いを促進するコミュニティ空間をまちづくり、福祉、医療、教育などに携わる機関が連携してつくること
- 少子高齢化に伴い増加が予測される空き家や空き室の活用を図る取組が必要なこと

## 施策の方向性 ～地域での人のつながりを広げていくために～

### (1) 人と地域のつながりをつくる

#### ① 地域のつながりの構築の推進

訪問活動の実践、キーパーソンの発掘及びその経験を活かす取組の推進、ミッションに取り組む地域活動の促進

#### ② 多世代が交流できる場の提供

子どもと高齢者のふれあいの醸成、居場所づくりの推進

#### ③ 新しいツールの積極的な活用

コミュニケーションロボットの活用、健康増進への支援

#### ④ 住、働、学、健康・医療のネットワークの構築

藤沢型地域包括ケアシステムの推進、在宅医療の促進

#### ⑤ コミュニティの持続のための場と仕組みの構築

### (2) つながりを育む空間・場をつくる

#### ① 小学校区エリアを支え合いと助け合いの核とする

小学校区エリアでの支え合いの推進  
地域市民の家の活用の推進

#### ② 住まいとまちの環境再生

(仮称)藤沢市住生活基本計画の策定  
空き家の活用に向けた取組の推進

#### ③ 民間事業者やNPO等との連携

居住支援協議会への参画  
住宅供給事業者との連携

#### ④ 居住者が参画する仕組みの構築

